

石川元亮

号

石川貞白

いしかわ・げんりょう

いしかわ・ていはく

医家

経歴

生:文化8年(1811年)、福山生まれ

没:明治18年(1885年)、享年75歳、福山寺町光政寺に葬る

文政8年(1825年)～ 文政9年(1826年)ごろ	14～ 15歳ごろ	阿部公の御坊主となる
—	—	妙政寺川端に家を構える
—	—	大念寺そばに転居する

生い立ちと学業、業績

江戸の人、医家。

名は元亮、貞白・貞伯と号した。

元毫(もとあきら)ともいったか。

旧名は磯野勝五郎。

14、15歳の頃、阿部公の御坊主となる。

医薬のことに詳しい。

伊澤蘭軒が君前にいざり出て、塙保己一(はなわ・ほきいち)の話相手をつとめた。

父の失禄にあたり、表向き伊澤榛軒の門人となり、剃髪して医師となり石川貞白と称した。

国語学に精しく、歌文を作る。

酒好きで時に誤り、榛軒の戒めにより酒を断った。

伊澤家や渋江抽斎とも親しかった。

長じて後、君侯より一家を構えることを許され、一胃、下し金までいただいた。

たまたま取調べがあり、その一胃を売り払っていたことが発覚し、御暇となった。

その後、伊澤棠軒(伊澤良安)の世話により帰参を許されたが、その時は伊澤長安の一七日だったため、位牌を抱いて泣いたという。

福山において、妙政寺川端に構えた家は、大正の頃まで残っていたという。

のち、大念寺そばに転居した。

明治18年(1885年)没、福山寺町光政寺に葬る。

前田夏蔭(まえだ・なつかげ)門の秀才。

日の本ハ櫻を花の大君と
霞める月をきぬかさにせり

(夏月) ひねもすの暑さ流れて行水の
さも涼しげの月のかけ哉

(菊) きくの花さきにしよりや秋をしも
千円とよよにいひならしらん

(雷) しばしだに心の直くなる神ハ
人をいさめのつづみなるらん

(出典1)～(出典4)

誠之館所蔵品

管理No.	氏名	名称	制作/発行	日付
05365	藤井松林 画 ほか	日本画「備後画人寄書」	—	明治10年ごろ

出典1:『福山藩の文人誌』、151頁、濱本鶴賓著、葦陽文化研究会編刊、1988年7月27日

出典2:『郷賢録』、58頁、福田禄太郎著、福山城博物館編刊、平成12年10月1日

出典3:『近世後期の福山藩の学問と文芸』、74頁、福山市立福山城博物館編刊、1996年4月6日

出典4:『芸備両国医師群像』、24頁、「石川貞白」、阪田泰正著、安芸津記念病院郷土史料室刊、昭和58年1月1日

2009年6月12日追加●2009年6月25日更新:経歴・本文●2009年10月1日更新:経歴・本文・出典●2009年10月20日更新:出典●2009年10月21日更新:出典●